

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表								
事業所名	てらびあぽけっと港南桜道教室							
公表日	R7年	1	1	月	2	6	日	
利用児童数: 30			回収数: 23					
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	2		2	バリアフリーについては十分とは言えない。	玄関とトイレに段差がある為、運動をする時にはマットを使って入れないようにする等工夫をしている。トイレの入り口については、手を繋いで誘導するようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23				いつも綺麗なだと思います。	感染症対策を踏まえ、職員全員で清潔を心掛けている。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	2				セラピーの記録を丁寧に取り、職員同士で情報がしっかり伝わるようにしている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	1		1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1			困っている内容を組み込み達成できるように支援してもらっている。	日々の振り返りと共に、登園や帰りの際にこまめに声を掛け子どもの様子を把握している。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	2				本人支援はもちろん、療育センターや幼稚園・保育園との連携を心掛けていて、保護者の要望に沿えるようにしている。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	1				支援計画を職員全員が共有していて、目標を達成できるように工夫している。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	3		1	毎回違うプログラムで子どもの行き渋りが無く通っている。	集団支援の前に職員同士で話し合い意を持ち、適した活動を選んで実施している。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7		5	11	今現在行われていない。	利用者が幼稚園・保育園に通っている為、地域との交流は難しい。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23					契約時に運営規定等を保護者と共に読み確認している。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23					支援の起算日に、保護者に示している。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	4	2	5	ユーチューブの動画を視聴できる。今現在行われていない。家族が参加できる研修会などは無い。	集まりやすい日を選び、早めに周知することで多くの保護者が参加出来るようにする。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	23					登園時に体温測定や手の消毒等を通し、児童の健康状態をチェックしている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	2			いつも親身になり的確な助言を頂いている。	支援計画の見直しをする時だけでなく、保護者の悩みを聞き相談に応じている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	1			どの先生もポジティブな言葉かけで励ましてくれている。	保護者の話を良く聞き、児童の良いところを共に発見できるように働きかけている。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	4	6	11	保護者同士、きょうだい同士の交流機会は無い。	同じ時間を利用している保護者同士の懇談や、事前に調整できるだけの余裕をもった日程で保護者会を持つことを検討している。出来ればOBの保護者会も開催したい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	1		1	いつも駆け込み寺の様に相談に乗って貰っている。幼稚園にも訪問し、様子を聞いて安心した。	子どもの送迎の時に声掛けをし、必要な支援が出来るようにしている。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	1				気軽に話しかけられるように、帰りの会を個室で行いしっかりと振り返りをしながら子どもの様子を把握している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	19	2		2		毎月のたより「さくらみちだより」を発行し、教室での集団活動の様子や、家庭で実践して欲しい事等を伝えるようにしている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1		2		鍵がかかるロッカーに保存し、充分気を付けて扱っている。
非常 時等 の 対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	2	1	6		BCPに基づく様々な計画が策定されており、月ごとに実施している。保護者へのお知らせがやや不足だった傾向があるので、予定や結果を掲示して行く。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	2	1	7		訓練を行っているが、その時の様子が保護者に伝わっていない部分があるので、しっかり知らせていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		4		事前と事後の報告を心がけていく。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	1		2		帰りの会等で保護者に知らせると共に、「今日に気づき」や「ひやりはっと」で確認し状況を説明している。
満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。	23					緊張感なく通ってきている。
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。	22	1			行き渋りなく本当に楽しく通えている。子ども、親の立場に立って寄り添ってくれている。お友達と遊べるのを楽しみにしている。	「子どもが行くのを楽しみにしている」という声をよく聴き嬉しく思っている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1			本当に満足している。とても満足している。とてもよくして頂いている。	卒業生も含め、保護者から満足しているとの声が多い。

事業所における自己評価結果						
公表						
事業所名		てらびあぼけつと港南桜道教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		広い訓練室と明るい個室、定員に十分なスペースである。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	新たに一人正規職員を採用した。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	段差があることをはっきり表示してある。	玄関・トイレの段差が危ないと思う部分について分かりやすい表示をする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		掃除に加え消毒を徹底して励行している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		相談室を何時でも使えるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	空き時間を上手に利用し、話し合っている。	職員同士の意思疎通を図り、プログラムを充実させていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	結果を踏まえ、たよりを発行した。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		ケース検討会等で職員の意見を聞くようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		第三者委員会は設けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		毎月の研修の予定を全員に知らせ参加を募っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		共通のファイルで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		子どもの実態を保護者から聞き取り、意見を総合して計画を立てている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		カンファレンスを行い、児発管とセラピストで共通理解を持って計画を立てている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個人別のファイルに計画表を添付し実施している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		インテーク用紙及び専門支援アセスメントにより確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		本人支援・家族支援・移行支援等、しっかり計画に盛り込み実施している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	集団遊びの活動の前にチームで準備がされている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	職員同士で意見を交換し、工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		集団と個人の活動を同等の比重で実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	適宜行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	「今日に気づき」の記録内容が役立っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		セラピーのメモを全職員と共有できるよう記録している。	
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	半年ごとの見直しを励行している。	

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者からの要望もあり、積極的に連携を取っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	小学校教諭のOBから支援学級の様子を提供して頂いた。	個別支援級との連携を深める。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		殆どの子どもが幼稚園・保育園に通っていて、必要性が無い。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		毎回保護者との懇談の機会を持ち情報共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	ユーチューブの保護者対応のプログラムを保護者に視聴するように進めている。	ペアレントトレーニングについて実施方法等検討し準備する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		保護者と共に運営規定等を一緒に読み確認している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		計画作成時には、保護者の意向をしっかりと聞いている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		計画作成後、保護者の同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		毎回保護者との懇談の機会を持ち助言している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6	何回か開催したが、定期的に出来るように、早めに開催日を知らせる。	共働きの家族でも参加できる日程を早めに知らせ、多くの保護者に参加してもらえるようにする。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		保護者の都合の良い直近の日程で相談に乗っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		「さくらみちだより」を毎月発行し、様子を伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報・写真など最新の注意を払っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		保護者の気持ちに配慮しながら、特性の理解を進めている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6		地域との連携については実施の可否を含め、今後検討していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2	マニュアルは出来ていて、何回か実施しているが、保護者に周知できていない。	実施しているが、全職員が参加し状況を把握できるようにして行く。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	4	11/27に地震と火災の避難訓練を実施する。	職員・保護者に実施内容について掲示し報告する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	契約時に保護者から情報を得把握している。	

非常時等の対応	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギーについては把握しているが、該当者なし。	食べ物の提供をしていない。必要な時は保護者が用意している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	安全計画を作成し職員の研修を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	緊急連絡網等できているので、家族に周知を図る。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリ・ハット報告の記録で具体的な対応を周知されている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1	資料に基づき研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1	身体拘束が必要な児童は居ない。	該当児童は居ないが研修は実施している。

事業所における自己評価総括表

公表				
○事業所名	てらびあぼけつと港南桜道教室			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	23名
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月26日			

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族に対してセラピー終了後に毎回丁寧に実施内容をフィードバックし、助言と支援を行っている。保護者からの相談に応じて児発管やセラピストが関係機関を訪問し保護者に様子をお知らせし喜ばれている。	セラピー終了後、終わりの会を個室で保護者を交えて行い、毎回保護者にフィードバックしている。日々の細かい相談をしやすい雰囲気を作り、しっかり時間をかけて相談を受けるようにしている。	保護者との交流を大切にし、必要に応じて児発管との面談に繋げたり、関係機関との連携を進める。 また、セラピスト同士でケース検討を重ね様々な相談に応じられる力を着けていく。
2	集団活動と個別活動をバランスよく組み合わせた支援で、個人としての力量を伸ばすと共に、集団での課題をクリアしている。	リズムウオーク、はじめの会に続き、利用者全員で参加できる集団遊びを実施している。順番を待つこと、勝ち負けで怒らない事等を学べるよう職員同士で常にプログラムを検討し、より新しい遊びを導入している。	0歳～6歳迄の幅広い児童が利用している。異年齢の子ども達の集団プログラムを更に開発し、常に皆が興味を持って取り組めるようにする。
3	活動空間が明るく清潔で、気持ちよく活動できている。	朝・夕に職員全員で教室の内外を清掃している。オモチャの消毒も徹底し、児童が快適で安全に遊べるようにしている。	「明るく清潔な教室」はオープンして以来の教室の伝統なので、今後も皆で大切に継続していく。
	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	これまで児童が参加しての避難訓練を何回か実施してきているが、保護者に伝わりにくく、周知されていない部分がある。	児童の複雑な利用状況を踏まえて、非常災害時に備えた避難訓練を種々検討している。避難経路等を掲示してあるが、年間の予定、実施について事前の通知が必要である。	消防署の方に来てもらい職員全員が落ち着いて安全に行動できるように準備している。計画が完成し相談室に常時設置してあるが、保護者に周知徹底出来るように、お便りや掲示物等に掲載し周知徹底できるように工夫していく。
2	保護者会を開催したが、保護者の日程が合いにくく少数での開催となった為、その後保留になっている。	共稼ぎの世帯が多く、保護者の都合の良い日程を選ぶことが難しい。	保護者の要望に応じて、利用時間内等、細かい単位で話し合える機会を設定できるようにする。また、開催までに十分な時間を取り、保護者が時間の調整が出来るようにして行く。 またOBからも卒業後の状況を個々に聞いているが、今後はOB会を開催出来るようにしていく。
3			